表 1　マナマコ白化個体発見・飼育例

発見日・報道日	発見場所	発見個体数	飼育場所	出典
2001年11月25日付	兵庫県洲本市ナマコ漁	白—1	神戸市立須磨海浜水族園飼育中	神戸新聞
2001年11月8日付	福井県小浜市甲ケ崎海岸、カニ籠	白—1、	福井県海浜自然センター弱ったので、放流	中日新聞朝刊福井版
2001年4月15日	静岡県清水市興津海岸、水深1.5m、釣り	白—1	東海大学海洋科学博物館飼育個体死亡	東海大学社会教育センターホームページ http://www.scc.u-tokai.ac.jp/sectu/kaihaku/topics/topic014a.html

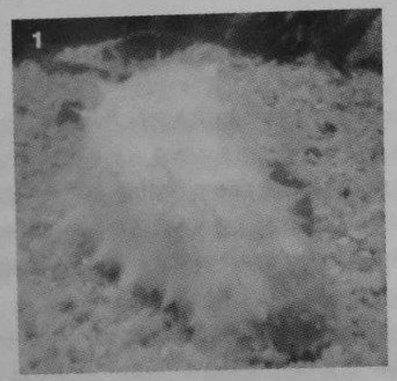
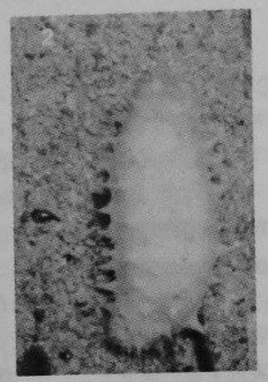
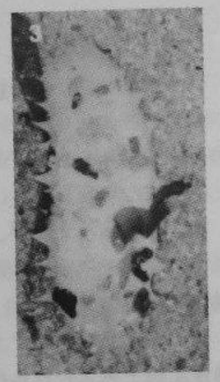

図 1　魚津産マナマコの白化個体
1　マナマコ口部周辺　　2　マナマコ背部（写真上部が口側）　　3　マナマコ腹部（写真上部が口側）

引用文献

林　清志 .1991 富山湾のウニ・ナマコ . とやまの魚 .82—83. 富山県水産試験場 , 富山 .

氷見市国見のオオイヌノハナヒゲとエゾリンドウ生育地の概要

中川　定一
〒 935-0004 氷見市北大町 13-47

A Report of the Habitat of *Rhynchospora fauriei* Franch. and *Gentina triflora* Pall. var. *japonica* Hara at Himi City, Toyama

Teiichi Nakagawa
Kita omati 13-47, Himi City, Toyama 935-0004, Japan

はじめに

平成 12 年 11 月 13 日、氷見市国見地内で、もう 50 m歩けば石川県というところで、富山県内では生育地が比較的限られており、氷見地方では初めての記録となるオオイヌノハナヒゲの群生地を見つけた。その湿地は、標高 420 mに位置し、面積は約 500 平方メートルである。周辺部にはノハナショウブ、エゾリンドウなどの希少種が生育しており、能登地方における最重要な湿地の一つであると思われるので、その概要を報告する。

図 1　オオイヌノハナヒゲ生育地

図 2　オオイヌノハナヒゲ

生育地の概要

湿地の位置を図 1 に示す。ここには湿地が二つ隣接しており、林道に近いものは、かつては底の浅いため池であったと推定され、それが徐々に湿地化して、現在のほとんど開放水面のない状態に至ったものと考えられる。もう一つのものは、50 平方メートル程度の小さな谷内で、水が浅くたまり、二方の山からは植林された杉が迫る。

前者の湿地の全域にオオイヌノハナヒゲ、上辺周辺部にハンノキ 5 ～ 6 本とその下にサワオグルマ、下辺周辺部にはノハナショウブなどが生育している。オオイヌノハナヒゲの下にはジュンサイ、ニッポンイヌノヒゲが小形化して潜んでいる。後者の湿地にも全域にオオイヌノハナヒゲが生育し、周辺部にはエゾリンドウが約 200 株生育している。

また、藪こぎして県境を越えた石川県鹿島町には、長さ 300m ぐらいの「湯谷」と表示されたため池があり、左岸側は碁石峰から石動山に通ずる自然遊歩道の一部になっている。この池の周辺にも、マルバノイチヤクソウやシソクサ、センブリ

図 3　エゾリンドウ

と希少な植物が集中している。この地域全体の詳細な植物分布調査が必要であると考えられる。

文献情報

オオイヌノハナヒゲは、富山県植物誌（大田・小路・長井,1983）に、「オオイヌノハナヒゲ－ヤチスゲ群集（シュレンケ）の標徴種、亜高山の中層湿原にごく稀に生育。宇奈月祖母谷～唐松岳の餓鬼ノ田圃」とあり、また、生物多様性保全のための国土区分に基づく植物群集など富山県内分の重要地域情報（富山新聞,1997）によると、「谷内谷湿原(低層湿原含む)（オオイヌノハナヒゲ・オオミズゴケ群落等）中間湿原生物群集　利賀村」とある。氷見の場合、低層湿原は利賀村のものと似ているが、オオイヌノハナヒゲが生育するとは限らない。能登地方のオオイヌノハナヒゲは、七尾市植物目録（小牧,1969）に奥原、国造山、につづき白馬、東三階、西三階とあり、高階地区の植物（西井,1982）にも、池崎、東三階の地区名が出てくる。

この他、輪島市の植物目録（小牧ほか,1993）に三蛇山、中島町史（小牧ほか,1995）には「長浦のため池。水際にしがみつくように生育」とある。石川県の絶滅のおそれのある野生生物2000植物篇（古池ほか,2000）では、ランクは情報不足とある。

エゾリンドウは、富山県植物誌（大田・小路・長井,1983）に、深山、亜高山の林縁草地に広く生育とあっていずれも亜高山の植物のような書かれ方である。石川県で記録されたものをみると、低地の湿地が生育地であるが、その生育地は失われてしまって確認する事は出来ない。前書、七尾市植物目録（小牧,1969）に小池川原、白馬、細口、東三階、西三階とあり、志賀町史(1980)には、「志賀町の丘陵地帯には、池沼とこれに伴う湿地が多く、県下にその比を見ない。従ってここを住家とする水生植物や湿生植物も多く、各所にみごとな群落が見られる。」とあり、アギナシ、ヒナザサをはじめ24種の種が記載されている。能登地方ではオオイヌノハナヒゲとエゾリンドウは丘陵地の湿地の植物であるといえる。しかし、数年、エゾリンドウを探したが能登では見ていない。たぶん開発等でなくなったと思っている。

図4　オオイヌノハナヒゲと共に湿地に生育するサワオグルマ

志賀町史(1980)は地名不明、輪島市の植物目録(1993)、中島町史(1995)ともに記載なし、石川県の絶滅のおそれのある野生生物2000植物篇（古池ほか,2000）によると「生育環境として、平地の湿地や池沼畔に生育する。加賀白山高地区を除き、全県的に分布する」とある。

付録．オオイヌノハナヒゲとエゾリンドウを求めて（2001年の野外調査から）

(1)兵庫県の池――日本で一番ため池が多い。オオイヌノハナヒゲ、エゾリンドウを見ない。オニバス、マルバオモダカ、ヌマガヤなど面白いものを見る。

(2)滋賀県比良山――オオイヌノハナヒゲやミミカキグサを見る。

2002年8月、オオイヌノハナヒゲを求めて琵琶湖周辺の山、比良山（1000ｍ級）に登った。その湿原にはサギソウ、トキソウ、モウセンゴケなどが生育しており、腰を下ろして注意深く観察すると黄色で2,3ｍｍの花が見えてくる。ミミカミグサであった。

(3)八尾の湿地――オオイヌノハナヒゲ、サギソウ、ホザキノミミカキグサを見る。

洪積層の山麓斜面とその下部の新第三層との間から地下水のにじみ出る所があり、そこに湿性植物が生育している。八尾深谷では案内して下

さった森井昌俊さんが「ここ数年間ミミカミグサを見ていない、もし見つけたら教えてください」といわれたので、密かに黄色の微小な花を探していた。

第一の観察地、第二の観察地になく、最後の観察地に紫の小花を見つける。形態はミミカミグサに似るが、紫色である。はじめて見る花でもある。比良山での訓練が役立つた思いや発見の喜びで自分ひとりで感動に浸っていた。この花、紫色なので現地ではムラサキミミナグサと口走ったが、ホザキノミミカキグサでタヌキモ科の食虫植物であった。

(4) 能登門前町野毛湿地

オオイヌノハナヒゲ、ムラサキミミカキグサ、コイヌノハナビゲを見る。能登地方ではブナでも極めて低いところにあるから、単独峰効果のため寒く、生育するのは当たり前だと思っていた。群生しているところは、日本植生誌中部・近畿を見ても1000m級の山ばかりである。そうしてオオイヌノハナヒゲと共に生育している植物は、変わった、面白い、希少なものばかりである。

文献

石川県絶滅危惧植物調査会 .2000. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物2000植物篇 .358pp. 石川県環境安全部自然保護課 . 石川 .

大田弘・小路登一・長井真隆 .1983. 富山県植物誌 .430pp. 広文堂 . 富山 .

小牧旌 .1969. 七尾市植物目録 54pp. 七尾市少年科学館 . 石川 .

小牧旌ほか .1993. 輪島市の植物目録 .89pp. 輪島市教育研究所 . 石川 .

小牧旌ほか .1995. 中島町史 887pp. 中島町役場 . 石川 .

富山新聞 .1997. 生物多様性保全のための国土区分に基づく植物群集など富山県内分の重要地域情報 .

西井武秀 .1982. 高階地区の植物 .42pp. 七尾市立 . 高階小学校 . 石川 .

宮脇昭編 .1984. 日本植生誌近畿 596pp. 至文堂 . 東京 .